

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201101		
法人名	有限会社 パートナー		
事業所名	グループホーム パートナー伊川谷		
所在地	〒651-2116 神戸市西区南別府4丁目368-1 和幸ビル3.4F		
自己評価作成日	平成28年2月5日	評価結果市町村受理日	2016年 5月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	2016年 3月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様との寄り添いを大切にし、共同生活を生かし、みんなで作るたこ焼きやお汁粉等その時々合った食べ物をスタッフと利用者様と一緒に食べる事やTV体操をみんなで毎日楽しむように取り組んでいます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街の田園地帯に隣接し、豊かな自然に恵まれている。ビルの3階、4階に各1ユニットがあり、日当たりの良いリビングからは四季折々の景色が楽しめる。限られた建物内のスペースではあるが、職員は常に利用者や家族が楽しめる事、喜んでもらえる事を模索し、穏やかな日常の中でささやかな変化や喜びを感じてもらえるよう取り組んでいる。開設依頼、建物内2か所の医療機関をはじめ必要な他医療機関との柔軟、かつ速やかな協力関係が構築されており、緊急時と併せて安心できる環境が整備されている。現在は、高齢化・重度化が進み、介護度の高い利用者が増えてきているが、利用者は自宅のように穏やかに過ごしている。ここを最後の住処としている利用者のその人らしい最後をも、職員は自然に受け留め見守っている。利用者の最後の拠り所となるべく、さらなる飛躍を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価3Fおよび第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	nageteiru	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「地域住民と共に」を掲げ、職員が常時、目につく様掲示板に掲示し、日々理念を共有し、実践している。	職員間で理念を共有する為に、事業所内で掲示することを実践している。職員は日々の暮らしの中で利用者一人ひとりと向き合うこと、大切に思うことで理解し支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お散歩時、地域の方と挨拶を交わしたり、同ビル内の医院の往診や隣接している薬局の方が訪問されるときに日常的に交流している。	近隣の農家や散歩時に会う地域の方との交流は日常的に行っている。週2回の清掃業務を精神障害者支援事業所に委託している。地域からの交流の機会が少なく、職員や医療機関を通じての地域との数少ない関わりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同ビル内の医院と隣接している薬局にGHパートナーパンフレットを設置させて頂き、認知症への関心を持って頂く様、努力している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回奇数月の第3水曜日14:00～15:00に開催している。ご家族様に興味を持って頂ける議題を用意している。近隣のGHの管理者にも参加してもらい、パートナーも近隣のGHの運営推進会議参加し交流を深めて情報交換を行い自施設のサービスの向上の努めている。	利用者と家族には順次声掛けをし、地域包括、民生委員、知見者が参加して開催している。予め毎月の広報誌で案内し、利用者や家族からの要望を聞き議題に反映している。映像で活動報告をし、サービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年4回開催されている西区GH連絡協議会に参加し、各GHの現状報告や最新の情報を交換し、情報の共有の場として、積極的に参加し協力関係を築けるように取り組んでいる。	年に4回のグループホーム連絡協議会と年2～3回ある市の研修に参加している。区の福祉担当窓口や他の事業所との連携を取ることで、情報交換が図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時個別に研修を行い、年1回(4月)に身体拘束について全体研修を行っている。研修時、身体拘束を盛り込んだ劇をパートナー劇団が演じ、観賞内容についてレポートを提出し、身体拘束をしないケアに取り組み、掲示板にも身体拘束について掲示し、日々実践している。	入社時と年1回の研修をしている。毎回具体的な題材を劇に仕立てて見せることで、理解出来るよう工夫している。転倒や事故を考慮しフローアごとに施錠しているが、利用者の体調、或いは気候がいい時期には職員と外に出るようにしている。	フロアの施錠について、開錠に向けた検討を今後も継続していただきたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時個別に研修を行い、年1回(4月)に高齢者虐待について全体研修を行っている。研修時、高齢者虐待を盛り込んだ劇をパートナー劇団が演じ、観賞内容についてレポートを提出し、高齢者虐待をしないケアに取り組み、掲示板にも高齢者虐待について掲示し日々実践している。	身体拘束と同様、毎年研修を実施し、職員全員で理解出来るように工夫している。劇を演ずることが、新たな研修、職員のストレス軽減にもなっている。管理者やリーダーは、職員の話をいつでも聞くよう努めており、ストレスが溜まらないよう配慮している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	nageteiru	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設では現在3名成年後見人制度を活用し、支援している。昨年運営推進会議の議題に挙げて司法書士の先生に後見人制度について学ぶ機会を持ちました。	成年後見制度を利用している利用者があり、実際の事例として学ぶ機会がある。今年度は身体拘束と虐待の研修時に併せ、権利擁護の研修を行った。が、管理者は十分な研修には至っていないと感じている。	折を見て、権利擁護の研修を是非していただきたい。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時事前にご家族・ご利用者様に施設を見て頂きご不安な点や疑問点を訪ねて頂き、ご納得のいくまで説明した上で、ご契約書をお互いに読みながら説明を実施し、充分納得した上で、契約して頂くよう努めている。	見学時に、利用料金についての質問が挙がり、丁寧に答えるなど、納得してもらってから契約している。看取り、状態の悪化、延命処置等については、利用者や家族の意思を尊重し、確認している。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会(5月と11月)を開催し、個別に家族様にご精算を行い、2回目(11月)の家族会の際にはご精算残高の相殺をお一人ずつ行い、ご家族様のご意見や要望を聞かせて頂き、ミーティング等でご家族様の意見や要望を反映させて頂いている。	家族会を開催し、家族ごとに面談して意見や要望を聞き取る機会を得ている。家族から痛みの緩和の為にマッサージを受けさせたいとの希望があり、通院につなげ反映させた例がある。家族会以外でも来訪時に声をかけて要望を聞き取り、サービスの向上につなげている。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第2水曜日全体ミーティングを開催し、各フロアの交流も兼ね、話し合いの場を設けている。	各フロアにリーダーを置き、何か問題が起きた時だけでなくいつでも職員から意見を聞ける体制を整えている。必要時には個人面談も行う。食事についての提案があり、たこ焼きやお好み焼きを利用者と一緒に作ったり、カフェテラスを駐車場で開催したことがあった。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成20年11月に「中土井社会保険労務士事務所」と委託契約をし、就業環境については、各自が向上心を持ち働ける環境の設備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自施設での研修は行っているが、人材不足が続いており、外部研修を受講できる人材確保が現状不可能である。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者が西区GH連絡協議会や他施設の運営推進会議に積極的に参加し、交流の機会を持ち、自施設の悩みや問題点を相談したり、逆に相談を受けたりアドバイスを行ったり、相互にサービスの質の向上に努めている。			

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	nageteiru	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活でのコミュニケーションを多く取り入れ、話しやすい環境を作り、ご本人のニーズや不安も全職員が周知し、個々のニーズに添った介護支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご面会時に身体状態や日常生活の報告をし、ご家族様の不安を取り除くと共に職員とのコミュニケーションを測ることで話しやすい環境作りに努めている。		
17	ka	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の本人の身体状態に合った日常生活が送れる様にご本人様とご家族様のニーズを踏まえて話し合いをし、サービスの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様ができる事はご自身で頂き、出来ない面の介護支援を行う。又食事時は職員も同席し同じメニューを共に食べることにより、コミュニケーションの場を増やし、より良い関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のニーズや職員の考え方をコミュニケーションを測ることにより、情報の共有を行い、利用者様の介護支援に努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との外出や連絡、施設のイベントの参加等で周りとの関係が途切れないよう支援している。	「家に帰りたい」という希望が多く、利用者の実家や墓参りなど家族の協力を得て支援している。家族に毎月多くの写真を掲載した広報誌を送ることで、行事への参加を呼び掛けている。以前、毎月行っていた実家近くの神社へのお参りに行くことを、実現した例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの食事、レクリエーションの参加を促し、共同空間を作ることにより、入居者様同士がコミュニケーションを取れる環境作りに努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	nageteiru	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、相談や支援を必要とされる対象ご利用者様がいらっしゃらない為、関係を断ち切らない取組みは行えていない。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に必ず、ご本人様・ご家族様・後見人に希望や意向を伺い、ケアプラン等に明記し、暮らしの中でご本人様の意向と向き合いお一人おひとりに合った生活が送れる様に支援している。	入居時に利用者と家族に直接希望を聞いている。困難な場合は家族から聞くことが多い。無理に聞き出すのではなく、出来るだけ日頃からの関わりの中からくみ取るように努めている。得た情報は必ず職員間で共有し、反映するようにしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様・後見人にこれまでの生活史について伺い、ケアシートに明記し、スタッフ同士情報を共有してご利用者様がこれまでの生活と変わりなく安心して暮らせるように支援している。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様に寄り添い・傾聴し、ご利用者様の日々の生活を把握し、心身の状態をいち早く察知できるように支援している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスでご利用者様の現状の問題点や改善点について話し合い、現状に合った介護支援ができるようにケアプランを作成している。又、ご家族様の意向や希望を伺い、現状を説明した上で可能な限り、ケアプランへ盛り込んでいる。	毎月のカンファレンスでモニタリングを行っている。利用者の現在の状況を職員間で話し合い、家族の意見や希望を聞いて支援につながるようにしている。それらの意見を踏まえた上で、看護師とケアマネが相談して半年ごとに計画を見直し、現状に添った介護計画を作成している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、ご利用者様の情報は勿論の事、ご家族様とのやり取りであったり、特に注意する特記事項がある場合は個人連絡票への記載もされ、職員は情報を共有しながらご利用者様の日々の介護支援を行っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様のニーズに対応出来るように外部からの支援や施設内で可能なサービスが柔軟にできるよう事業所として取り組んでいる。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	nageteiru	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同ビル内に泌尿器科・歯科があり、利用者の状態に合わせて柔軟な対応をしてくれている。地域の接骨院の術者が訪問し、必要とする利用者へ週3回施術を行っている。年に1度(4月)近くの農園での毎狩りをとても楽しまれている。お散歩を兼ねて近隣の神社参りやお地蔵様参りに行っている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は施設に往診に来られる医師が主治医ですが、ご本人様・ご家族様の希望により他の医者とも連携を取り適切な医療が受けられるよう支援している。	認知症、精神科など、従来のかかりつけ医へは、家族の通院介助としている。多くは納得のうえ、協力医の月2回の往診や通院を行っている。階下の歯科、泌尿器科の他、眼科、耳鼻科などの往診も必要に応じて可能で、重度の利用者にも安心の医療体制となっている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しているので、介護スタッフと常に連携をもち急な変化にも対応している。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはスタッフが必ず付添、施設での生活状態・性格等、詳細に説明している。入院中お見舞いに行き、現状の情報収集に努めている。病院・ご家族様からの退院相談には、すぐに応じるように努めている。	毎日のラジオ体操や歩行リハビリで入院回避に努めている。また、やむをえない入院となった場合も、事業所での介護、看護サマリーの提供をしている。早期退院に向けては、家族やMSWとの連携を密にするとともに、受け入れ体制を整えている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合や終末期の意思表示を文書にて確認させて頂いている。加えて年2回の家族会(5月・11月)には再度ご家族様の意思確認をさせて頂き、終末期においてはご家族様・医師・看護師・介護職員でカンファレンスを行いご利用者様にとって最良の終末期を迎えられるように支援し、取り組んでいる。	「看取りに関する指針」を提示し、事業所のできる、できないことを説明し、納得を得たうえで同意書による確認をしている。看護師のもと介護者は見取りを経験している。高齢化、重度化に伴い、家族への寄り添いも大切にしつつ、事業所全体で終末期支援を目指している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備えについては、夜間緊急持ち出しファイルの中に手順を記している。全職員はファイルの設置場所の把握を徹底し、感染症や急変・事故発生に備えて定期的に研修を行っている。窒息時の研修は定期的にできていない為今後研修を行いたい。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練(1回は夜間を想定した訓練)を行っている。避難方法は消防と話し合い指導を頂いている。全職員に避難方法を周知徹底させている又、災害時に備え食料・水を備蓄している。	車いす利用者も多く、避難訓練の重要性を感じている。消防署への直接通報システムも導入し、毎回、火元設定も変え訓練している。深夜営業の店舗や近隣住民、個人的に消防団員などと個別なつながりはあるものの、地域組織との連携は難しい現状である。	折に触れ、近隣の理解、協力を得る機会をうかがってほしい。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	nageteiru	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは常にご利用者様の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように接し、言葉かけには特に気を配っている。排泄介助の時には特にプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	記憶が薄れ、旧姓での認識を持つ利用者には、家族の了解も得て苗字ではなく名前で呼んでいる場合もある。元医師には尊敬を払い、「先生」の呼称で呼ぶ場合もある。特に支援時の声掛けには配慮を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本はご利用者様自己決定ではあるが、情報が多い場合は困難になる場合があるので、情報を最小限にし、ご利用者様に自己決定をして頂く様に促している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間配分も必要であるが、ご利用者様のペースに合わせて過ごして頂くように心がけている。ご利用者様一人一人の情報をスタッフは共有し、ご利用者様が過ごしたい暮らしを支援している。全体レクの時などは一人ひとり希望を伺って自己決定して頂いている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様は居室に一人ひとり好みの品を持って頂いている。こだわりの衣服などご本人様に自由に着て頂き、常に清潔な物を着用されているか確認しています。おしゃれを楽しめるようにドレッサーを持ち込んでいただいている方もいる。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事の盛り付けは、ご利用者様とスタッフが一緒に行い、たこ焼きやおとし焼き等、作る楽しみを持って頂き、ご自分たちで作ったものを美味しく召し上がって頂いています。	調理済みの副食に対して、事業所では炊飯や汁物を用意している。盛り付けや洗い物を手伝う利用者もいる。1ヶ月に1~2回、お好み焼きなど職員と利用者が一緒に手作りしている。駐車場に屋台ラーメンを呼び、家族も含め昔懐かしいラーメンを楽しむ企画も予定されている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事量・水分量を確認し、栄養摂取や水分確保に努めている。嚥下困難なご利用者様への対応はカロリーメイトや栄養価の高い栄養補助食品等をゼリーに作り替えゼリー状で召し上がって頂く様に支援している。1度に多量摂取が無理な方にはご本人様のご負担にならないように時間を区切って訪室させて頂いている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。拒否のある方は、スタッフが代わる代わる声掛けを行い口腔ケアを促している。食事介助が必要な方の口腔ケアはハミングッド、ポリデント等で口腔内の清潔を保持している。			

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	nageteiru	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗で自信を無くされたり、落ち込まないようトイレ時にさりげなく声掛けし、パット交換を促し、失敗に回数を減少させるように支援してる。	自立の利用者もいるが、全介助で定期的な体位変換やおむつ交換の必要な利用者も複数いる。視力障害の為、ポータブルトイレを使用している。便意の様子にさりげなく誘導し、トイレでの排泄を心掛けている。可能な限りトイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が続いている方には、紅茶・コーヒー等嗜好品で自然に水分を摂取できるようにしています。毎朝体操を行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日が週2回(火・金)と固定になっている中で、お一人お一人の入浴のタイミングを計りながら、入浴を楽しんで頂く様にコミュニケーションを取りながらリラックスして頂き、個々にそった入浴タイムを支援している。	朝一番9時からの入浴希望があり応えている。ゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤での楽しみもある。拒否者には、体調や声掛け、タイミングなども見て工夫し利用につなげている。重度寝たきり状態の場合、体調も考慮しシャワー浴対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息を取りたい時、体調が優れない時等、ご本人様が休みたい時には、室温・部屋の明るさ等をご本人様に確認して頂き、快適に休息がとれる様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用様にご自分の服用されている薬についてご説明できるように日々薬の変化についてスタッフは確認している。薬を間違えないようにまず自分で確認し、ご利用者様の前で再度お名前と日にちを読み上げダブルチェックを行っている。服用後ご利用者様に変化がみられる場合、NSに報告し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自立されている方には、食事の盛り付け・洗濯たたみ等、家事をお手伝いして頂いたり、レクリエーションでかるた取りやたこ焼き作り、折り紙など張り合いのある生活支援を行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩がお好きな方は、スタッフと一緒に近所を散歩をされている。時にはドライブに行かれることもある。今年は、初詣にも行かれました。	近くの桜堤への散歩、神社への初詣で、ドライブを兼ねての買い物や通院など、家族の協力も得ての外出となっている。重度化に伴い、遠距離の外出は体調の悪化なども見られ、現在は控えざるを得ない状況もある。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	nageteiru	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を少額ではあるが所持して頂いている。下の自動販売機でご自分でジュースを購入して頂いたりしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自施設の電話を使ってご家族様への連絡やご自身の携帯を使われてお電話をされています。利用者の方が手紙や年賀状を書かれてご家族や知人とやり取りができるように支援している。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示板や玄関(エレベーターホール)には季節の物を飾り、時節を感じていただけるように心がけている。空気清浄機付加湿器をリビングに置き、湿湿度を調節している。玄関とトイレにはセンサーライトを取り入れて心地よく過ごして頂けるよう工夫している。。	ゆったりしたリビングには複数のテーブルやソファ、テレビがあり、利用者は思い思いに過ごしている。明るいうリビングのベランダから、階下の駐車スペースに立ち寄る神社の山車を見るのも、恒例行事である。職員手作りの絵手紙風の貼り絵も、ほのぼのと見るものを癒してくれる。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の関係を理解し、リビングにはテーブルを5~6コ設置し、それぞれの居場所を作っている。ご利用者様の希望により職員は臨機応変に対応し、寛げる空間づくりに対応している。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居されるときに使い慣れたもの安心して置けるものを置いて頂き、自分の居場所を作っている。ご利用者様の希望により必要なものはご家族と連携をとり、ご利用者様が居心地の良く過ごして頂けるように支援している。	各居室には個性的な暖簾がかかっている。畳敷きの和室と洋室がある。木製チェストや衣装ケース、家族の写真など、思い思いのものが置かれている。重度のため、居室で食事をとっている利用者もいる。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、安全な環境を整えている。1か月に1度各フロアのカンファレンスを行い、ご利用者一人一人の現在の状況について話し合いの場を持ち、ご利用者の現在の状況に合わせ自立と介助を組み合わせ安全に生活して頂く様支援している。		